

第96期

中間報告書

平成19年4月1日 ▶ 平成19年9月30日まで

B U S I N E S S R E P O R T



小松精練株式会社



私たちはいつも開拓者。



私たちは、新鮮で驚きのある 素材開発に挑み続ける。

私たちは、快適で心豊かな生活づくりに挑み続ける。

そして、世界に冠たる『ファブリックメーカー』に必ずなる。

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜わり、厚くお礼申し上げますと共に、ここに小松精練株式会社の第96期中間期（平成19年4月1日から9月30日まで）の業績についてご報告申し上げます。

当中間連結会計期間における我が国経済は、民間設備投資の増加や好調な輸出に支えられ、緩やかながらも成長を持続いたしました。しかし、原油価格の急騰や円高基調、更にはサブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速と世界経済への波及懸念が生じ、先行きに予断を許さぬ状況下で推移いたしました。

繊維業界におきましては、原油価格の急騰による原材料および燃料、薬品価格の急上昇により、さらに「川上・川中インフレ」が進行、一方、消費財市場は、天候不順が加わって、より低迷し、また競合国の技術力向上による良質・廉価品輸入が増加するなど「川下デフレ」が進行し、生産・流通諸段階の経営を圧迫するなど厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、当社は「世界に冠たる先端ファブリックメーカーたらん」という方針とその実践にあたり、「連邦経営」「グローバル化」「スピーディな選択と集中」を志向した経営資源の最適配分、並びに社内・社外との戦略的連携の推進を行い、「感性」「機能」両面の独自技術の開発、独自市場の開拓に挑戦してまいりました。また、原材料価格の急騰に伴う諸資材コストの上昇に対しましては、LNG燃料への転換等、原価低減活動の徹底を図りました。

また、地球環境保護に対する責務に対しましても、製造方法の見直しも含め、積極的に取り組んでまいりました。

次に中核の繊維事業の業容であります、衣料・非衣料分野へ投入した形状保持素材「テクノビンテージBJ」や抗アレル物質素材「アレルバスター」、独自ハイブリッド素材等が、「B to B to C」ビジネスモデルを志向したマーケティングと相俟って、欧米・中東市場輸出において大幅に拡大し、また国内市場においても天候不順による最終製品販売不振の中、順調に拡大し、主力の「ビンテージ織意」の好調と併せ、国際競争力低下の汎用衣料・非衣料分野の落ち込みをカバーいたしました。

なお、期中の技術開発については、最上質うるし調素材「ルガーノ」、最高級透湿防水素材「ディマ・カルテット」、筋肉質触感素材「テクノビンテージBB」などの市場導入を相次いで行っており、今後の拡大を目指しました。新事業となる有機EL封止部材については、技術確立を終え、サンプル供給を開始し、国内外の企業と量産技術について共同開発を開始いたしました。

国内外のグループ企業においても、小松精練（蘇州）有限公司を始め、各社が順調に業績を拡大いたしました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は20,149百万円（前年同期比6.2%増）、経常利益1,084百万円（前年同期比22.6%増）、当期純利益751百万円（前年同期比29.3%増）となりました。

繊維事業

ファッション分野では、依然として好調なファブリック「ビンテージ織意」やマイクロファイバーによるナイロン、およびハイブリッド繊維編物を用いた「テクノビンテージBJ」、「ハイブリッドシリーズ」等の積極的な国内外の市場開拓により、カジュアル衣料を中心に大きく伸長し、前年同期比で大幅な増収となりました。

スポーツ分野では、暖冬の影響でウインター用途が苦戦したものの、海外市場を中心に機能ニット素材や透湿防水素材がアウトドア、アスレチック用途で拡大し、前年同期比で増収となりました。

リビング分野では、画期的な技術である抗アレル物質素材「アレルバスター」がカーテンや寝装品などの用途で順調に拡大しましたが、不採算商品からの撤退、および中国子会社への置き換え等を進めました結果、前年同期比で減収となりました。

車輦内装材分野では、合繊及びDIMAの内装材の拡販、および差別化素材を使用したカーシートカバー等の取り組みを強化しましたが、内装材の高級車生産の減少、中小型車需要の拡大により、数量は増加したものの前年同期比若干の減収となりました。

生活資材分野では、生産ライン増設により、パフ用素材の拡大、および生活関連用品の伸長により前年同期比で増収となりました。

医療・福祉分野では、プレケア用途の

堅調な推移に加え、補正・矯正用および包材用の機能性ニット素材等の医療分野の市場開拓を図り、大幅な増収となりました。

電材分野では、半導体用手袋や無塵衣、また電磁波シールド材などが堅調に推移したこともあり、前年同期比で微増収となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の当部門の売上高は19,743百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

その他の事業

物流（倉庫、運送）分野では、不採算事業の撤退および集配送基地の集約を含む、生産性向上やコストダウンに努めた結果、収益を大きく改善いたしました。

以上の結果、当中間連結会計期間の当部門の売上高は406百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

通期の見通し

今後の経済見通しにつきましては、景況は持続すると思われますが、サブプライムローン問題の拡大による米国経済の減速や株価の低迷、円高基調が続くなど先行きに対する不安材料もあり、予断を許さぬ状況が継続すると思われます。

繊維業界におきましても、さらなる原油価格の高騰により、燃料、原材料価格

の上昇が続いていることから、「川上・川中インフレ」はさらに加速するものと思われます。また、個人消費についても生活関連物資の相次ぐ値上りから消費財全般の買い控えが懸念されるなど非常に厳しい状況が予測されます。

このような経営環境の中、当社グループといたしましては、感性とハイテクノロジーの融合による独創的繊維素材の開発に努め、得意とするファッション分野やスポーツ分野で国内外の市場拡大を目指すとともに、車輦内装材、医療・福祉、電材などの分野で用途・顧客開拓を推し進めてまいります。特に強力なシナジー効果を発揮すべく、自社事業部門のみでの完結にこだわる「自前主義」の考え方を徹底して排し、また社内外の主要拠点間や産・学・官との戦略的連携（クラスター）を強化した技術開発・市場開拓を進めてまいります。

特に、繊維事業のグローバル展開については、当社の最重要課題として位置付けており、現在の仏・伊中心のオペレーションを欧州全域、北米、および中国内販の強化等、世界市場に向け市場開拓を進めてまいります。

さらに、製品事業展開については「B to B to C」ビジネスモデルの基礎固めを急ぎ、「染料役者染め」を中心に据えた当社独自のアパレル事業の構築・拡大を進め、消費者との接点を持つ事業展開も併せて推進いたします。

また、原油価格急騰によるコストアップ圧力に対しては、機械設備の導入・

開発改良による工程合理化や省力化、省エネの推進、および染料・薬品の処方統一、海外調達を含めた代替品への転換など強力なコストダウン施策を推進することにより収益基盤の整備・強化に努めます。併せて、温室効果ガスの削減や産業廃棄物の削減など、環境対応についても、より積極的に進めてまいります。

以上により、当期の業績は連結売上高40,000百万円（前年同期比6.4%増）、経常利益2,000百万円（前年同期比21.1%増）、当期純利益1,150百万円（前年同期比24.1%増）を予想しております。

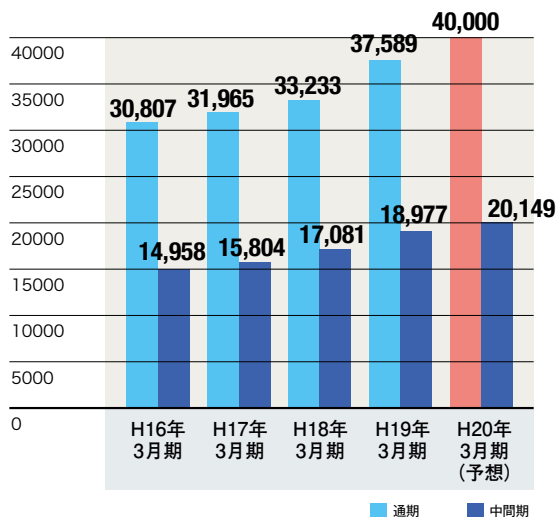


代表取締役社長 中山賢一

■ 連結決算主要財務指標

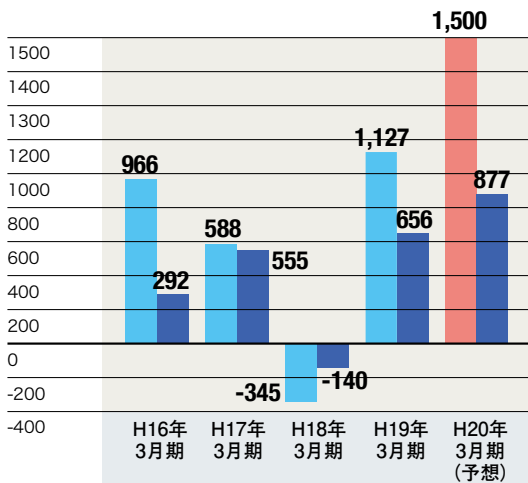
売上高

単位：百万円



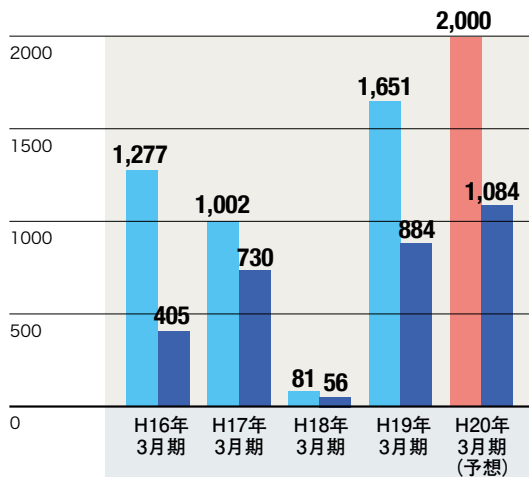
営業利益

単位：百万円



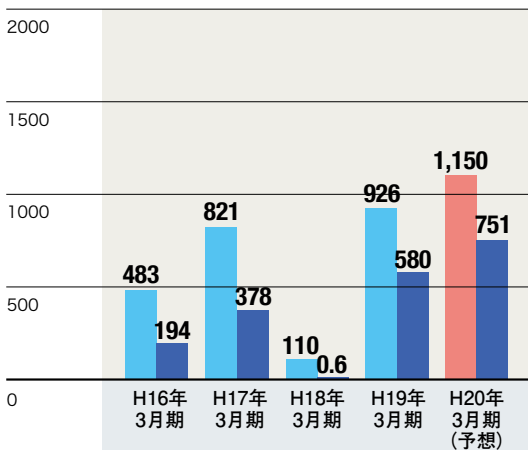
経常利益

単位：百万円



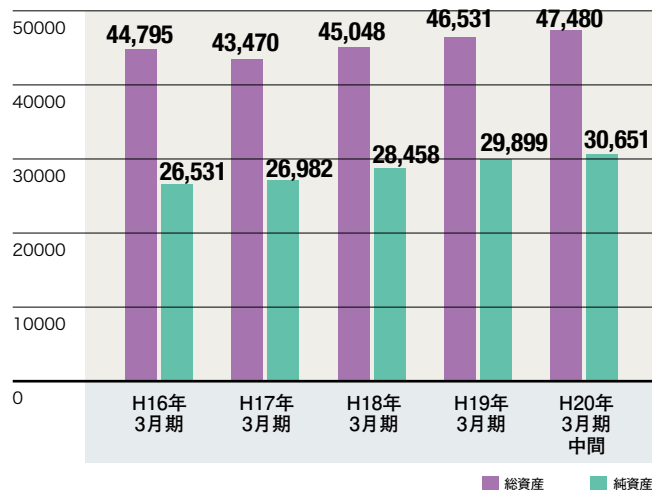
当期純利益

単位：百万円



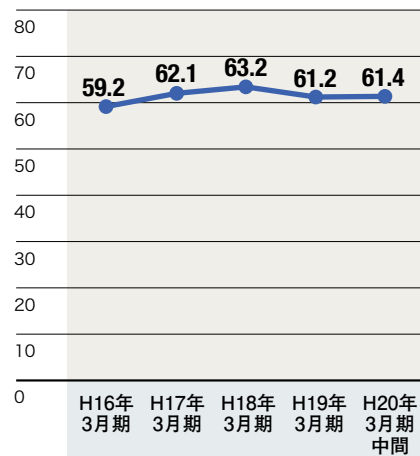
総資産・純資産

単位：百万円



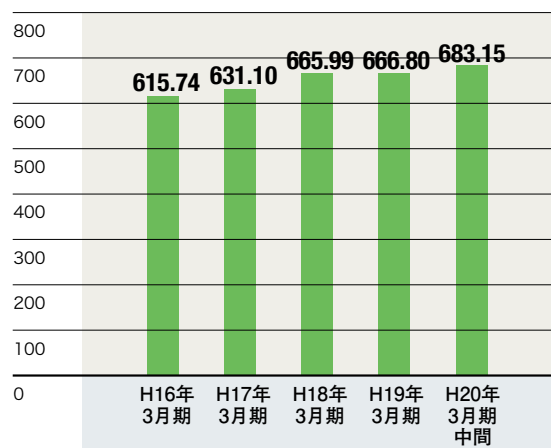
自己資本比率

単位：%



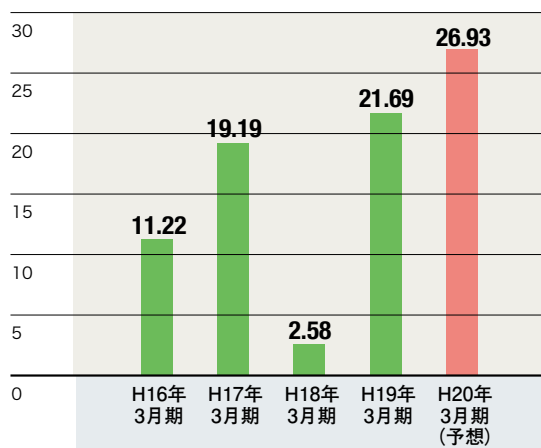
1株当り純資産

単位：円



1株当り当期純利益

単位：円



財務データ

中間連結貸借対照表の要旨

平成19年9月30日現在

単位：百万円

資産の部

科 目	金 額
■ 流動資産	24,895
現金及び預金	3,148
受取手形及び売掛金	11,126
有価証券	6,074
たな卸資産	4,147
繰延税金資産	254
その他	159
貸倒引当金	△14
■ 固定資産	22,585
[有形固定資産]	9,818
建物及び構築物	3,281
機械装置及び運搬具	4,272
土地	1,911
建設仮勘定	99
その他	252
[無形固定資産]	297
ソフトウェア	150
その他	147
[投資その他の資産]	12,469
投資有価証券	11,328
差入保証金	120
繰延税金資産	883
その他	136
資産合計	47,480

負債の部

科 目	金 額
■ 流動負債	11,457
支払手形及び買掛金	9,060
短期借入金	271
未払法人税等	261
未払費用	557
賞与引当金	506
その他	799
■ 固定負債	5,371
退職給付引当金	4,930
役員退職慰労引当金	401
その他	38
負債合計	16,828

純資産の部

科 目	金 額
■ 株主資本	27,526
資本金	4,680
資本剰余金	4,720
利益剰余金	18,323
自己株式	△197
■ 評価・換算差額等	1,644
その他有価証券評価差額金	1,501
為替換算調整勘定	143
■ 少数株主持分	1,480
純資産合計	30,651
負債・純資産合計	47,480

中間連結損益計算書の要旨

平成19年4月1日から9月30日まで

単位：百万円

科 目	金 額
■ 売上高	20,149
売上原価	16,876
売上総利益	3,273
販売費及び一般管理費	2,396
■ 営業利益	877
営業外収益	350
受取利息及び配当金	108
その他	242
営業外費用	143
支払利息	1
その他	142
■ 経常利益	1,084
特別利益	113
国庫補助金収入	113
特別損失	133
固定資産除却損	18
固定資産圧縮損	111
その他	3
■ 税金等調整前中間純利益	1,064
法人税、住民税及び事業税	245
法人税等調整額	93
少数株主損失	26
■ 中間純利益	751

中間連結株主資本等変動計算書の要旨

単位：百万円

平成19年4月1日から9月30日まで

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成19年3月31日残高	4,680	4,720	17,785	△192	26,994	1,432	52	1,484	1,420	29,899
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△213		△213					△213
中間純利益			751		751					751
自己株式の取得				△5	△5					△5
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額（純額）						69	90	159	60	220
中間連結会計期間中の変動額合計			537	△5	532	69	90	159	60	752
平成19年9月30日残高	4,680	4,720	18,323	△197	27,526	1,501	143	1,644	1,480	30,651

中間キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

平成19年4月1日から9月30日まで

科 目	金 額
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	974
税金等調整前中間純利益	1,064
減価償却費	683
引当金の増減額（減少：△）	△102
売上債権の増減額（増加：△）	△974
仕入債務の増減額（減少：△）	769
法人税等の支払額	△375
その他	△90
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,219
固定資産の取得による支出	△773
固定資産の売却による収入	3
有価証券の取得・売却（取得：△）	494
投資有価証券の取得・売却（取得：△）	△1,102
その他	157

科 目	金 額
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△352
短期借入金の純増減額（減少：△）	△134
配当金の支払額	△213
その他	△5
■ 現金及び現金同等物に係る換算差額	3
■ 現金及び現金同等物の増減額	△594
■ 現金及び現金同等物の期首残高	7,301
■ 現金及び現金同等物の中間期末残高	6,706

中間貸借対照表の要旨

平成19年9月30日現在

単位：百万円

資産の部

科 目	金 額
■ 流動資産	22,494
現金及び預金	2,232
受取手形及び売掛金	9,389
有価証券	6,078
たな卸資産	3,354
繰延税金資産	225
その他	1,220
貸倒引当金	△6
■ 固定資産	19,780
[有形固定資産]	6,069
建物及び構築物	1,904
機械装置及び運搬具	2,307
土地	1,620
建設仮勘定	38
その他	197
[無形固定資産]	129
ソフトウェア	107
その他	21
[投資その他の資産]	13,581
投資有価証券	9,198
関係会社株式	3,367
差入保証金	103
繰延税金資産	777
その他	134
資産合計	42,274

負債の部

科 目	金 額
■ 流動負債	9,125
支払手形及び買掛金	7,562
未払法人税等	203
未払費用	323
賞与引当金	464
その他	570
■ 固定負債	5,175
退職給付引当金	4,740
役員退職慰勞引当金	401
その他	33
負債合計	14,301

純資産の部

科 目	金 額
■ 株主資本	26,476
資本金	4,680
資本剰余金	4,720
利益剰余金	17,273
自己株式	△197
■ 評価・換算差額等	1,496
その他有価証券評価差額金	1,496
純資産合計	27,973
負債・純資産合計	42,274

中間損益計算書の要旨

平成19年4月1日から9月30日まで

単位：百万円

科 目	金 額
■ 売上高	16,305
売上原価	13,304
売上総利益	3,001
販売費及び一般管理費	2,261
■ 営業利益	739
営業外収益	221
受取利息及び配当金	117
その他	103
営業外費用	135
支払利息	0
その他	135
■ 経常利益	825
特別利益	113
国庫補助金収入	113
特別損失	129
固定資産除却損	14
固定資産圧縮損	111
その他	3
■ 税引前中間純利益	809
法人税、住民税及び事業税	191
法人税等調整額	101
■ 中間純利益	516

中間株主資本等変動計算書の要旨

平成19年4月1日から9月30日まで

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成19年3月31日残高	4,680	4,720	16,969	△192	26,178	1,427	27,605
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△213		△213		△213
中間純利益			516		516		516
自己株式の取得				△5	△5		△5
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額（純額）						69	69
中間会計期間中の変動額合計			303	△5	297	69	367
平成19年9月30日残高	4,680	4,720	17,273	△197	26,476	1,496	27,973

役員及び株式情報

役員・執行役員

平成19年11月30日現在

役 職	氏 名
代表取締役会長兼社長	中山 賢一
取締役専務執行役員	蓮本 英信
取締役専務執行役員	中田 清英
取締役専務執行役員	高木 泰治
取締役常務執行役員	石倉 幸雄
取締役上席執行役員	池田 哲夫
取締役執行役員	山竹 俊樹
取締役執行役員	橋爪 諭
取締役（社外取締役）	橋本 和司
取締役（社外取締役）	浅葉 修
取締役（社外取締役）	尾川 勝也
常勤監査役	本谷 佑久
常勤監査役	竹内 和也
監査役（社外監査役）	香川 裕行
監査役（社外監査役）	割出 雄一
上席執行役員	中村 正一
執行役員	奥谷 晃宏
執行役員	折本 忠
執行役員	階 廣孝
執行役員	山本真一郎

発行済み株式数・株主数

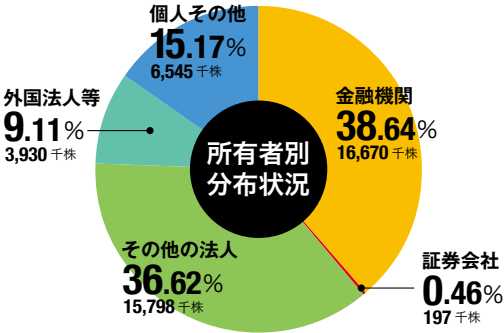
平成19年9月30日現在

発行済み株式数 ● **43,140,999 株**
株主数 ● **3,237 名**

大株主

株主名	持株数	持株比率
東レ株式会社	2,649 千株	6.14%
株式会社北國銀行	2,113 千株	4.89%
クレディ スイス ユーロ ビービー クライアント エスエフピー ブイエル	1,731 千株	4.01%
第一生命保険相互会社	1,550 千株	3.59%
日本生命保険相互会社	1,467 千株	3.40%
共栄火災海上保険株式会社	1,381 千株	3.20%
三菱商事株式会社	1,250 千株	2.89%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,236 千株	2.86%
住友信託銀行株式会社	1,230 千株	2.85%
小松精練松栄会	1,118 千株	2.59%

所有者別分布状況



■ 売上状況

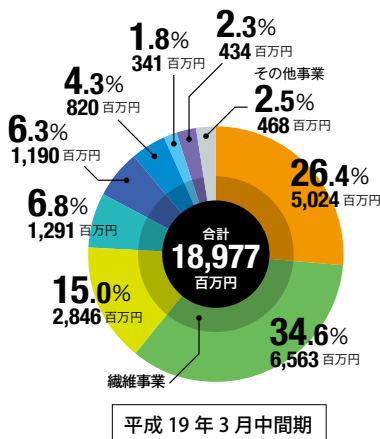
分野別

平成19年4月1日から9月30日まで

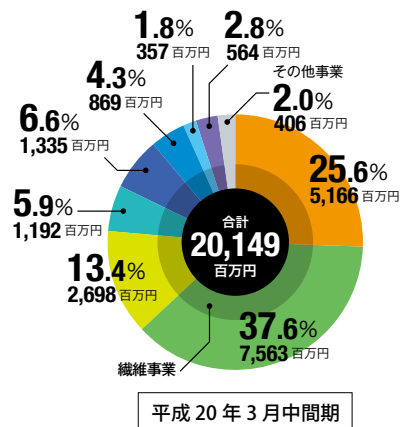
■ 分野別売上高

当社グループは、選択と集中政策の下、新素材の開発・導入を中心とした経営資源の集中投入を図った結果、衣料分野は前年同期対比で9.9%の増収となりました。

また、非衣料分野については、収益性を重視した受注政策の下、インテリア分野の不採算商品からの大胆な撤退を図り、同時に医療・福祉分野で受注拡大したことにより、前年同期対比で1.3%の増収となりました。



スポーツ ファッション リビング 車両
生活資材 医療・福祉 電材 その他



消費地別

平成19年4月1日から9月30日まで

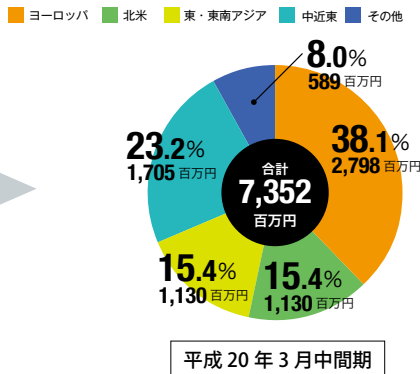
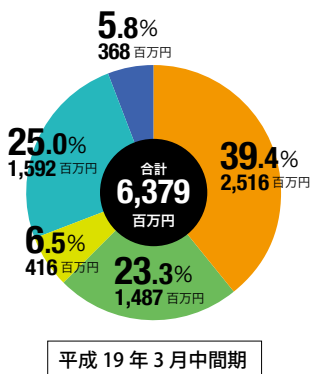
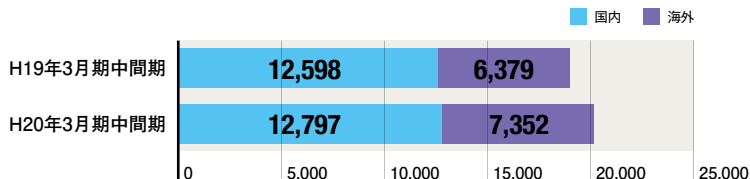
単位：百万円

■ 国内海外売上高

海外売上高については、前年同期6,379百万円に対し、今期は15.2%増の7,352百万円と大幅な増収となりました。

海外売上高を消費地別に分類すると、欧州市場や中東市場では新商品の提案や新規顧客開拓を重点的に実行した結果、順調に拡大いたしました。

また、小松精練（蘇州）有限公司の本格稼働により、中国内販の拡大を着実に実行した結果、東・東南アジア市場においても大幅な拡大となりました。



■ 驚きと感動を与える素材が続々誕生

どんなアイテムにもマッチ！

最上質うるし調素材『ルガーノ』（8月）

07年9月、パリで開催された世界最高峰のテキスタイル見本市「ブルミエール・ヴィジョン（PV）」で『ルガーノ』は世界デビューしました。この『ルガーノ』の最大の特長は、素材の持ち味を活かしつつ、深みのある最上質うるし調の質感

としなやかさを兼ね備えているところです。スポーティに、カジュアルに、そしてエレガンスに。どんなアイテムにもマッチする『ルガーノ』は欧州トップメゾンから高い評価を受け、現在国内外問わず、多くのアパレルが採用を決定しています。



ルガーノを使用した製品

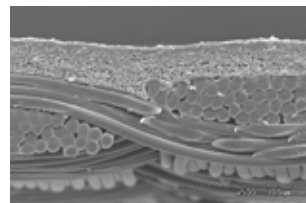
快適なスポーツシーンを実現！

高次元透湿・防水・撥水素材『ディマ・カルテット』（9月）

独自開発した特殊ウレタン樹脂とナノテク材料を駆使し、気孔サイズが0.5~3 μmの大きさに均一な微多孔膜形成を可能にしました（写真）。この技術によって、高いレベルでの透湿性と“防水性”を実現。さらに市場ニーズを反映し、摩擦に強く耐久性の高い撥水性を持ち、な

おかつ風合いはソフトでしなやかな素材『ディマ・カルテット』を完成させました。

ハードなウィンタースポーツや登山などのアウトドアに最適な機能を搭載した『ディマ・カルテット』は、快適なスポーツシーンを実現させます。



断面写真（×500）

欧州で爆発的な人気！

形状保持素材『テクノピンテージBJ』（11月）

高い形状保持性とナチュラルな表面感を持つ新質感素材です。欧州バイヤーからの強いリクエストを受けて開発したこの素材は、日本の知恵を結集させたという誇りを込めて『BJ』（the BRAIN of JAPANの頭文字）という呼称で06年2月にPVデビューしました。大々的なプロモーションを行っていな

いにも関わらず、欧州では、その表面感や質感が爆発的な人気を集め、引き合いが殺到しました。07年も欧州からの引き合いが継続拡大し、供給能力が不足する状態が続きましたが、増産体制の準備が整い、来年1月から『テクノピンテージBJ』のブランドでいよいよ国内への販売を開始します。



「テクノピンテージBJ」の表面

TOPICS

世界市場に向けて

国内外に当社の素材・技術を積極的に発信

海外で高評価を受ける小松精練の素材群

当社は「世界に冠たる先端ファブリックメーカー」を目指し、国内外問わず数多くの見本市への出展や個展の開催をおこなっています。特に、海外マーケットにつきましては、欧州で“ファッションウィーク”と呼ばれる2月と9月に、パリでは世界最高峰のテキスタイル見本市『プルミエール・ヴィジョン』に毎回出展し、さらに同時期、ミラノにある当社ショールームで個展を開催。いずれも欧州トップメゾンから高い評価を受け、欧州ビジネスは確実に拡大しています。また、中国については小松精練（蘇州）有限公司と連携しながら、広州にある当社ショールームで定期的に個展を開催。富裕層を狙った素材提案が功を奏し、中国市場でも当社ブランドが徐々に浸透しています。

一方、国内マーケットにつきましては、ファッションの先端を走る欧州市場での見本市や個展を通じて得られる生の情報をフィードバックし、提案の強化に務めています。このように、当社はこれからも積極的に見本市での出展や個展を開催し、新しい素材の提案とマーケットの深耕・拡大を図っていきます。

2007年度 展示会スケジュール（4月～12月）

4/5～7	広州内見会 於：中国 広州ショールーム
4/18～20	東京展「Prism ism」 於：東京南青山ラ・コレツィオーネ
5/9～11	ジャパנקリエーション（JC） 於：東京ビッグサイト
9/11～14	ミラノ内見会 於：ミラノショールーム
9/18～21	プルミエール・ヴィジョン 於：パリ・ノール見本市会場
10/15～26	2007小松精練素材展 ～素材の力・技術の底力～ 於：多目的ホール
10/16～25	ルガーノ内見会 於：東京営業所
11/7～8	広州内見会 於：中国 広州市内ホテル
11/19～20	いしかわ繊維産地展にて 東京展『vital』 於：六本木・泉ガーデンギャラリー防災センター
12/5～7	JFW ジャパנקリエーション 於：東京ビッグサイト



〔4月〕東京展



〔5月〕ジャパנקリエーション



〔9月〕プルミエール・ヴィジョン



〔11月〕いしかわ繊維産地展



〔11月〕広州内見会

■ 地元に感謝の念を込めて

海岸清掃を実施（7月）

今年7月8日（日）能美市主催の「第27回よりよい環境づくりの日」に行われた海岸清掃に当社グループの従業員やその家族約700名が参加し、地域住民の皆さんと共に約6kmの海岸を2時間かけて清掃しました。

当社は石川の恵まれた自然と、日頃当社の企業活動に対して深く理解をして頂いている地域住民の皆さんへ感謝の気持ちを示すため、この運動の開始当初より毎年、積極的に参加しています。また、

一企業市民として、クリーンな街づくりのための市民奉仕運動にこれからも積極的に参加していきます。



「2007小松精練素材展」を開催 地元住民、小学生に開放（10月）

10月15日より2週間、当社は2007小松精練素材展～素材の力・技術の底力～を開催しました。この展示会は、①自社の工場間、グループ企業間、産地企業とのコラボレーションによる物作りの推進、②地域の皆さんへの当社の活動や企業姿勢の積極的なアピール、③当社グループ社員の教育を目的として開催しました。特に、今回は能美市内の小学校6校、およそ420名の子供達を招待し、社会学習の授業として活用していただきました。

この試みは、ものづくりの面白さを体験してもらうため、昨年より近隣の小学校2校で行いましたが、今年は各校より見学したいとの強い要望があり、範囲を

拡大して受け入れを行ったものです。当社はこれからも子供たちにもものづくりの面白さを知ってもらうための機会を積極的に作っていきます。



小松精練杯 チャレンジカップ2007年 第2回能美市小学校対抗 サッカー大会開催（10月）

「小松精練杯チャレンジカップ2007・第2回能美市小学校対抗サッカー大会」が10月28日（日）、能美市辰口物見山陸上競技場で開かれ、市内全8校の4年生から6年生の男女197名が出場しました。

今年は、大会前より元日本代表とJリーグを目指す地元のサッカーチーム「ツエーゲン金沢」の選手が各小学校へ訪問し、事前レッスンを行いました。試合は、昨年よりレベルアップし接戦が多く、各校とも大会に向けて多くの練習した様子が伺えました。また、保護者の方たちにも大会のことが徐々に浸透しており、昨年より多くの方が応援に訪れ、懸命な声援が大会をいっそう盛り上げました。なお、事前準備から大会当日の試合進行、審判など、多くの社員がスタッフとして支え、大会を成功に導いています。



会社の概況

商 号	小松精練株式会社
設立年月日	昭和18年10月8日
資 本 金	46億8,042万円
本 社	〒929-0124 石川県能美市浜町ヌ167番地
本 社 工 場	同 上
美 川 工 場	石川県白山市鹿島町1号7番地 1
大阪営業所	大阪市中央区本町 2丁目 5番7号（大阪丸紅ビル 4階）
東京営業所	東京都中央区銀座 3丁目 9番 7号（トレランス銀座ビルディング 8階）
北陸営業所	石川県能美市浜町ヌ167番地（小松精練株式会社 本社 2 階）
上海事務所	上海市延安西路2200号（上海国際貿易センター1913号）

株主メモ

決算期	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183－8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	住所変更等用紙のご請求／0120-175-417 その他のご照会 ／0120-176-417
URL	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
1単元の株式の数	1,000株
公告の方法	電子公告の方法により行います。 http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html 上記ホームページの「電子公告」をクリックして下さい。 ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じた場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部